

東日本大震災に学ぶ。～命の大切さと日常からの大切さ～

12年前の3月11日午後2時46分、東日本大震災が起こりました。大きな揺れを観測するとともに、海岸線に壁となって押し寄せた津波により多くの人命が失われました。

大津波の被害に遭遇しながらも小中学生約3000人のほとんどが助かった岩手県釜石市。海岸からわずか100メートルの



ところにある小学校では最初校舎の3階に避難しましたが、隣の中学校の生徒が校庭に走り出ている姿を見て、小学生達は自主的に中学生の後を追ひ、避難場所に逃げ、全員無事だったそうです。その後津波は堤防を越え、小学校や中学校まで押し寄せました。

このことは一般に「釜石の奇跡」と呼ばれていますが、これができた背景には「想定にとられるな」「最善を尽くせ」「率先して避難せよ」という『避難三原則』があったからだそうです。

本校のグランドデザインに示す4つの<目指す生徒像>の1つが「自ら学び、考え、行動する生徒」です。普段みなさんは、授業を始め、学校生活、また家庭生活でも様々なことを学んでいます。その知識に基づいて「考えること」そして「行動すること」ができるようになってほしいと思っています。上記の『避難三原則』、これは生きる上でものすごく大切な教えだと思えます。「想定にとられるな」。特に自然が相手の場合、想定外のことが起こりうるのです。「当たり前」や「いつも通り」にとられず、自分でその時の状況をしっかり判断して、思い切った決断せよってことですね。「最善を尽くせ」。「もうダメだ」とあきらめず、最後の最後までできることをやり切れてことですね。「率先して避難せよ」。「まず自分がその姿を見せる。」「迷うな」ってことでしょうか。

みなさんにはよりよい社会の担い手になってほしいです。東日本大震災の時、避難所等で中学生や高校生が果たした役割はとても大きかったと聞いています。みなさんには地域において自然災害等何か起こった時に地域で可能な限り貢献できる人材になってほしいと思っています。テストや入試のためだけに学んでるんじゃない。「生きる力」を身につけるために日々努力を重ねてほしいと願っています。また、明日2時46分に黙祷することが可能な人はよろしくお祈りしますね。

1年生で緊急学年集会が行われました。



3月8日(水)、1年生は多目的室に集まり一斉終わりの会として緊急の学年集会が行われました。校長室の前を1年生の生徒が並んで通っていったので、「何かあるな。」と思いついて行った次第です。「みんな、真剣に聴いてほしい。」学年主任の奥西先生が語り始めます。「テスト後のみんなの様子がすごく気になる。」と。人を傷つけるような不用意な発言や

行動があるのではないかという趣旨のお話だったと思います。お互いに注意し合うことの大切さもおっしゃっていました。2年生に向けて、今一度気を引き締めようってことですね。しっかり頼みますよ!!

最後の給食の日を迎えた3年生。

3月8日(水)、この日は3年生の最後の給食でした。4月からの次の進路先では給食は基本的にはありません。「いただきます!」の前にそう話しておられる先生もいらっしゃいました。成長期にあるみなさんのカラダ

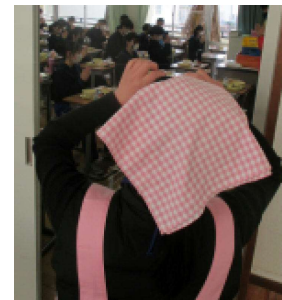


作りに一役買ってきてくれました。栄養のバランスを考え、毎日キチンと提供していただきました。本当にありがたかったですね。

最終日と言うこともあり、この日給食センターから栄養士の方が様子を見に来られました。せっかく



なので、一緒に1階から順に3年生の教室を撮影しながら回ってみました。(右は撮影する栄養士さんです!)近くにいた何人かに金田さんの紹介をすると、ある男子生徒が「これまで給食をありがとうございました。」と自分の言葉でお礼を伝えていました。素晴らしいなって思いましたよ。



嬉しかったです。

今朝、いつものように校門前に立っていると送迎で来られた一人の保護者の方が車の窓を開けて「毎日ご苦勞様です。学校からのお便り(『北風と太陽』)もすごくいいです。親子の会話のキッカケになってます!」とおっしゃってくださいました。ありがとうございます。頑張ります!!